

令和 5 年度 点検・評価報告書

学科名・専攻名 看護学部 看護学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	看護学部では新カリキュラム・ポリシーに基づき、各学位課程にふさわしい看護と情報に関連する科目（例、看護過程論等）を開設した。また、「地域包括ケアと多職種連携」、「キャリアデザインとケア I、II、III、IV」、「看護と情報 I、II、III、IV」を提供している。	PROG を 2 年次及び 4 年次に実施して、教育効果の中長期的な視点から評価して改善に活かしている。項目⑤とも関連するが、新カリキュラム以降、進級条件の厳格化を行い、学習動機が希薄な学生に対して効果的な措置を行う必要がある。	2022 年度入学者から、新カリキュラムでは 2 年から 3 年へ進級する際の基準を厳格化し、看護国家試験受験にふさわしい学生のみが進級できるようにした。	国家試験対策を教務委員会参加の学習支援委員会で学生の学力に沿った形でサポート体制を構築し、DP に沿った評価を導入している。	教務委員会が中心となり、学科所属の教員と連携し、旧カリキュラムから新カリキュラムへの移行に伴い、教育課程を総合的に見直した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・看護過程論の導入は、看護を実践するうえでの理論的根拠になっており、カリキュラム・ポリシーに沿った取り組みである。	【長所】 PROG によりコンピテンシーの発達段階を把握することができる。また、2022 年度入学者より、修学が不十分な学生については 2 年次から 3 年次に進級要件を定めた。	【長所】 進級要件を設けたことにより、看護学科のディプロマ・ポリシーに適った学生が看護師国家試験を受験できるようになった。	【長所】 特に 4 年生に対する国家試験対策は一層充実化が図られた。	【長所】 進級要件を設けたことにより、看護学科のディプロマ・ポリシーに適った学生が看護師国家試験を受験できるようになった。
	【特色】 ・看護過程論は看護と情報が関係する領域なので看護×情報を特色とする弊学看護学部にあふさわしい。	【特色】 コンピテンシーの発達段階を把握することができる。	【特色】 国家試験合格率アップという目的に対して合理的な取り組みとなっている。 ① 新カリキュラムでは、2 年次から 3 年次への進級要件を厳格化した。 ② 必修科目の評価を厳格化した。	【特色】 国家試験合格率アップという目的に対して合理的な取り組みとなっている。	【特色】 以下の取り組みを行っている。 ① 学園祭にて卒業論文（研究計画書）の発表会を開催し、外部からも多数の聴衆が参加している。聴衆が優秀発表を選んで表彰の対象としている。 ② 卒業時・就職後アンケート調査 ③ 国家試験不合格者の個別フォロー 本人の要望にもとづき、卒後も国試対策強化セミナーに無料で参加できるようにした。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・既存科目「看護と情報 II」との読み替えを分かりやすく説明する。	【問題点】 PROG によるアセスメントの費用対効果をいかに測定するかが不明確である。PROG の結果を全教員で共有して	【問題点】 留年確定者が増えることが想定されるが、個別の留年者に対する丁寧なフォローが必要である。	【問題点】 留年確定者が増えることが想定されるが、個別の留年者に対する丁寧なフォローが必要である。	【問題点】 2 年から 3 年次へ進級できない学生に対する個別対応が問題となろう。

令和 5 年度 点検・評価報告書

		具体的なアクションプランを立てる必要がある。			
	【課題】 ・既存科目「看護と情報Ⅱ」との読み替えを分かりやすく説明する。	【課題】 PROG によるアセスメントの費用対効果をいかに測定するかが不明確である。進級不可者に対する丁寧なフォローが求められる。	【課題】 留年学生のフォローをどのように実施するか。クラス担任、科目責任者等と連携して対応する。	【課題】 留年学生のフォローをどのように実施するか。クラス担任、科目責任者等連携して対応する。	【課題】 留年学生のフォローをどのように実施するか。クラス担任、科目責任者等連携して対応する。
根拠資料名	教務委員会議事録 学生ハンドブック	教務委員会議事録 学生ハンドブック	教務委員会議事録 学生ハンドブック	教務委員会議事録 学生ハンドブック	教務委員会議事録 学生ハンドブック

令和 5 年度 点検・評価報告書

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に 対する 現状説明	2023 年度版ホームページを看護学部を受け入れ方針に沿ってリニューアルするとともに、「看護と情報の連携」を紹介する看護学部の冊子を新たに作成して配布、活用した。 2023 年度 9 回開催したオープンキャンパスでは、看護基礎教育の具体的学習内容について、演習やミニ講義を通して紹介した。複数の入試制度について説明するとともに、在校生によるキャンパス内の紹介、個別ブースでの相談への対応を行った。入学選抜制度は、総合型選抜(未来創造型、Ⅰ期～Ⅲ期)、学校推薦型選抜(公募制推薦、指定校推薦、併設校)、一般入試(Ⅰ期、Ⅱ期)、共通テスト利用選抜(Ⅰ期～Ⅲ期)、社会人選抜に加えて、総合型選抜に課題研究型を設け、多様な学生を受け入れることに努めている。 入学者選抜は、総合型選抜と学校推薦型選抜、一般選抜、共通テスト利用選抜及び社会人入試を実施している。すべての入試における合否判定を学長、学部長、入試広報委員長他でおこなっている。 公正性については、面接を伴う入試では試験官を 2 名配置し、評価指針を明文化して、数値化することで、評点に基づく評価を実施している。	両学部合同の入試・広報委員会を毎月開催し、入試広報活動の全体像を理解し合える体制を整備している。委員会で検討した内容については、看護学部的全教員にポータルで通知するとともに、学科教員会に報告した。入試制度の変更等重要案件については、教授会、学科教員会等で意見を聞き、入試・広報委員会での審議に反映した。 入試科目の問題作成に関して、総合型選抜、公募制推薦型選抜の口頭試問については、入学時の基礎学力を評価できる設問を設け、出題範囲をホームページや入試要項で周知している。 一般入試科目の得点状況を翌年の問題作成に反映するために、入試問題作成に関して、入試問題作成委員と入試広報課、作問担当者で話し合いを持ちながら進行している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・オープンキャンパスでは、看護基礎教育の具体的内容を紹介する「プログラム」を準備し、来場者がプログラムに参加することで、入学後の学習をイメージできるように、入試広報担当の教職員が中心となって企画・運営を行っている。 ・入試制度については、ホームページの充実を図るとともに、入試・広報課に所属する受験生の希望に沿った受験形態を選択できるようにしている。 ・入試広報課に所属する 2 名の参与が年間を通して高校訪問をするとともに、看護学部の教員と協力して、学部紹介と入学した生徒の状況を報告している。	【長所】 ・総合型選抜、学校推薦型選抜の合格者に対して、大学が入学前教育(生物基礎)の費用を負担し、化学基礎、英語、数学等の科目については、合格者が費用負担して入学までの期間に学習習慣がなくなるようにサポートを行っている。 ・総合型選抜、学校推薦型選抜の合格者に対して、ビデオ会議を開催して入学前から教員や合格者相互の交流を図っている。
	【特色】 ・総合型、推薦型選抜入試を考えている高校生の来場が多く、複数回来場する高校生は、入学後の学生生活について、具体的な質問をするようになる。 ・授業料が減免される特待生制度を希望する受験生には、全体説明と個別相談で対応している。	【特色】 ・組織的、伝統的にオープンな学習環境を準備しているので、入試広報課と協力して、受験生、合格者に対する小まめな対応を行っている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・在校生が主体的にオープンキャンパスの運営に参加し、より高校生のニーズに合った対応を目指しているが、積極的で充実したキャンパスライフを送っている学生をスタッフとして採用できていない。 ・オープンキャンパスに来場する高校生が、新型コロナウイルス感染症の流行前の人数に戻っていない。	【問題点】 ・受験情報の収集、受験から合格発表、入学手続き、入学前準備等の受験生への時系列の対応窓口の調整が必要と言える。 ・情報の発信力について、受験生が求めている情報を絞り込んで、複数の方法で受験生に伝える方略に改善の余地がある。
	【課題】 ・定員を満たすまでの入学者数に至っていない状況が続いており、看護学部の認知度を高める活動と学生自らが看護学部在籍することの誇りと自信を持てる教育・キャンパスライフのサポート体制を整える必要がある。	【課題】 ・オープンキャンパスの来場者が少ないことで、来場者に「負」の印象を与えている可能性がある。 ・地域包括ケアに貢献できる看護基礎教育に重点を置いているが、高校生や保護者には高度・先進・先端医療への関心が高いことが予測される。

令和 5 年度 点検・評価報告書

根拠資料名	入学者選抜試験情報 https://www.tuis.ac.jp/entrance/department/ アドミッションポリシー https://www.tuis.ac.jp/nursing/ これからの看護師に求められるチカラとは「看護師ハンド BOOK」 https://my.ebook5.net/tuis/nursing_handbook/ 情報活用・発信力を育てる象徴科目「看護と情報」 https://www.tuis.ac.jp/media/kango-leaflet.pdf	入学予定者の皆様へ（入学準備情報） https://www.tuis.ac.jp/entrance/new-student_guidance/
-------	--	---

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☒)を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	ディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーに基づいて編成していることを学生ハンドブックにおいて明示している。新任教員に対してはオリエンテーション時に組織体制について説明している。 また看護学部将来構想検討委員会において現行の組織体制について見直しを行い、特色ある教員組織に向けて令和 6 年度より、基盤看護分野に看護情報学領域、地域看護分野に救急・災害看護学領域を新設する予定である。このことについて学部教員会で示した。	令和 4 年度の教員組織の再編成により、基盤看護分野（基礎看護学領域）、成人高齢者看護分野（成人看護学領域、高齢者看護学領域）、成育看護分野（母性看護学領域、小児看護学領域）、地域看護学分野（精神看護学領域、在宅看護学領域、公衆衛生看護学領域）の 4 分野 8 看護学領域で活動している。そのうち成人高齢者看護分野で実習はそれぞれ独立して実施していたが、2 科目（成人・高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ）統合化して指導した。	教員募集は大学ホームページ、JREC-IN Portal にて公募している。令和 4 年度の退職者の補充のため、専任教員（任期制）を 2 名採用するに至ったが、専任教員 4 名の欠員が続いている。臨床教員はこれまで 4 名で、2 名欠員状態が続いたが、今年度は定員数が充足されたことにより実習指導において専任教員の負担を軽減することができた。 教員の採用は学部において書類審査、学部の全教授による厳正な審査を実施している。昇任は教員の業績を確認して随時、審査を行っている。 任期制教員へは学部教授、総合情報学部学部長にも加わってもらい審査を行い、専任化に向けて助言を行った。	学部教員の資質の向上を目指して、FD を 2 回開催した。 第 1 回 FD はテーマを「学生の学習意欲を高めるための支援について」として教員間でディスカッションした。学部学生の状況として、集中力が続かない、承認欲求が強い、学習の仕方が分からず知識の定着が難しい、友人と共に学習しても互いに学び合う姿勢が認められない等の課題が共有された。教員の学生への支援として学習面で成功体験を積み上げる、学年間のつながりを構築する、学習意欲を下げないように工夫が必要等の意見が出され指導への参考となった。 第 2 回 FD はテーマ「今年度の臨地実習の準備状況と効果的な実習指導にむけて」とし、実習指導者と教員が参加し意見交換を行った。実習指導者と教員が現状の課題を共有し臨地での教育の充実を図ることができた。	教員の専門性、将来構想をふまえて教員配置を行っている。教員の評価はリサーチマップに登録してもらい活動状況を確認する共に、学部年報により教員の活動について評価している。
現状説明を踏まえた 長所・特色	【長所】 ・大学ホームページに公開している。	【長所】 ・現行の組織編成により専門性の高い教育・研究が可能となる。	【長所】 ・教員募集は大学ホームページ、JREC-IN Portal にて公募している。 ・教員採用、昇格は全教授が審査を行い多面性、公平性を確保している。	【長所】 ・FD 終了後のアンケート、教員、実習指導者がかかえる課題について反映できるようにテーマを設定する。 ・実習指導者が参加しやすいようにオンラインで実施する。	【長所】 ・教員の研究活動を公開することで共同研究の可能性が検討できる。

令和 5 年度 点検・評価報告書

	【特色】 ・学部分野・領域の活動はそれぞれに委ねられている。	【特色】 ・カリキュラムに準拠した教育が可能となる。実習においては領域間の連携が強化され教育効果が高まる。	【特色】 ・教員採用・昇格は教員資格審査基準に基づき実施している。	【特色】 ・実習委員会が中心となり、実習指導、教員の共通する課題について FD を開催している。	【特色】 ・看護学部 of 将来構想をふまえた人事計画により、教員の昇格について検討している。
現状説明を踏まえた 問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・社会の状況を反映した組織編成について確認することが必要である。	【問題点】 ・教育面では分野・領域間で活動しており、研究は教員が自立して活動を行っているため問題なし。	【問題点】 ・専任教員の欠員が続いているため、教員体制の不安定さが懸念される。	【問題点】 ・実習委員会による FD 開催が定例化されているため問題なし。	【問題点】 ・教員の研究活動の時間を確保するためにマンパワーの確保。
	【課題】 ・教授会、教員会において教員組織の在り方について検討する。	【課題】 ・	【課題】 ・教員の教育、研究、組織活動において改善すべき課題を把握する。	【課題】 ・	【課題】 ・教員確保に向けた活動の継続。
根拠資料名	・学生・大学ホームページ ・ハンドブック 2023 ・2023 年度看護学部将来構想検討委員会議事録・資料	・学生ハンドブック 2023 ・大学ホームページ	・JREC-IN Portal ・大学ホームページ ・任期制大学教員指導記録	・2023 年度看護学部 FD 記録 ・2023 年度実習委員会議事録・資料 ・2023 年度看護学部教員会議事録・資料	・Research map ・2023 年度看護学部年報